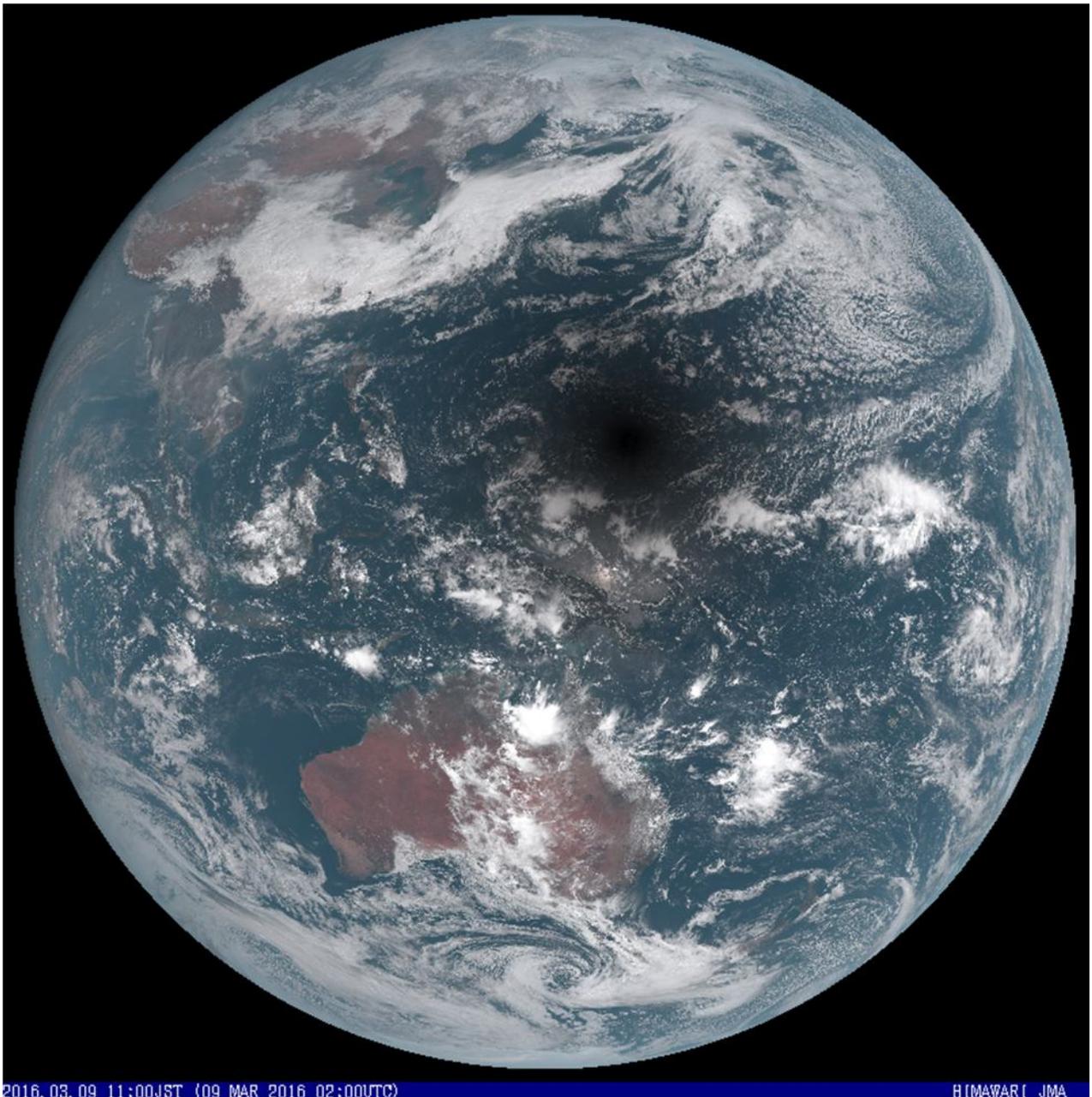


「3 月 8 日の日食衛星写真 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

下の写真は、日食の影が、日本列島付近に最も近付いた時の、衛星写真(拡大カラー画像)だ。北太平洋上に、月が作った黒い影が、くっきり映っているのがわかる。「世界最大の影」である。皆既帯付近は、目だつた雲もないので、船舶や航空機からは、すばらしい日食を観望できただろう。皆既帯の中心から離れるほど、月の影が薄くなっている様子がよくわかる。これは、皆既帯から離れるほど、食分(月に隠される直径の割合)が小さくなるからで、その分、太陽光がたくさん届くからだ。日本では、もし晴れていてもほとんど「日食による暗さ」を感じなかつただろう。残念ながら、弧状列島はほぼ完全に雨雲に覆われてしまった。

それにしても、赤道上空の高度 36000km から、常時地球全体を撮影し、カラー画像で見られるようにした、人類の知恵と技術はものすごいと思う。また、何千年も先に起きる日食や月食まで、1秒の狂いもなく予測できる観測・計算技術も驚異的である。おかげで、こうして宇宙から皆既日食の観察ができるのだ。



「2016 年 3 月 9 日の皆既日食の衛星写真」(気象庁 HP より) 2016_0309 11h 00' JST